

下方修正続くIMF世界経済見通し

ポイント① 2009年以来の低成長を予想

10月15日発表のIMF(国際通貨基金)の世界経済見通しによれば、世界の実質GDP(国内総生産)成長率は2019年には3.0%、2020年には3.4%と7月時点の見通し(それぞれ3.2%、3.5%)から下方修正されました。見通しの下方修正が続き、19年は2009年以来、最も低くなると予想されています。

世界経済成長率低下の主因は、世界貿易の鈍化のようです。図2が示すように、世界貿易量の成長率は19年には1.1%の伸びに留まるとされています。

ポイント② 新興国主導の回復を予想

先進国の経済成長率が19、20年とも1.7%に留まる見通しに対し、新興・発展途上国は19年の3.9%から20年には4.6%に高まるとされています。

ただ、これは各国で政策対応が進み、世界貿易の伸びが回復することを前提としているようです。

ポイント③ 保護主義是正と金融・財政政策

求められる政策対応としては、第一に保護主義政策の是正が挙げられます。米中貿易・経済交渉は、10月前半に部分的合意を見たようですが、世界貿易の回復のきっかけになるか注目されます。

第二には、金融・財政両面からの景気刺激策です。米国では7月、9月と利下げが行なわれ、次回10月末のFOMC(米連邦公開市場委員会)での追加利下げの有無が注目されます。ただ、もともと世界的に金利水準が低く、金融緩和余地が小さいため、財政政策の重要性が増しています。

足元で世界的に株式市場は概ね堅調ですが、企業業績に陰りも見える中、回復の持続には的確な政策対応が必要となりそうです。

図1：国・地域別実質GDP成長率見通し

	2018	2019	2020
			(前年比、%)
世界	3.6	3.0 (-0.2)	3.4 (-0.1)
先進国	2.3	1.7 (-0.2)	1.7 (-0.0)
米国	2.9	2.4 (-0.3)	2.1 (0.2)
ユーロ圏	1.9	1.2 (-0.1)	1.4 (-0.2)
日本	0.8	0.9 (-0.0)	0.5 (0.1)
新興・発展途上国	4.5	3.9 (-0.2)	4.6 (-0.1)
中国	6.6	6.1 (-0.1)	5.8 (-0.2)
インド	6.8	6.1 (-0.9)	7.0 (-0.2)

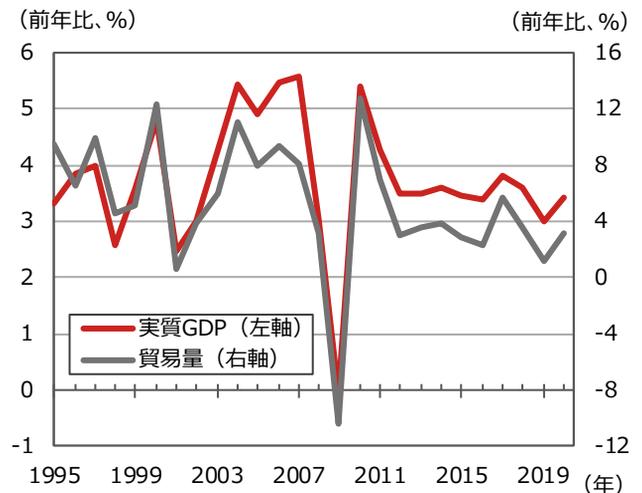
(注)2019年以降はIMFによる見通し

(注)()内は7月時点見通しからの修正幅

(出所)IMFデータより野村アセットマネジメント作成

図2：世界の実質GDP成長率と貿易量

期間：1995年～2020年、年次



(注)2019年以降はIMFによる見通し

(出所)IMFデータより野村アセットマネジメント作成

重要
イベント

10月18日 中国GDP統計(7-9月期)
10月30日 米GDP統計(7-9月期)
米金融政策発表